

第1回研究設備センター先端研究設備部門会議議事録

日時：平成24年5月28日 16:30～18:00

場所：東8号館 2F 会議室

出席者：青山、牧、守屋、加藤研究支援員、野崎（敬称略）

審議事項

1. 先端研究設備部門委員会の構成

先端研究設備部門委員会は、四半期ごとに開催する。委員は、委員長（野崎先端研究設備部門長兼材料・デバイス室長）、機械・ロボット室長（青山先生）、光・バイオ室長（牧先生）、部門長が必要と認めた者（守屋先生、加藤研究支援員）および研究設備センター専任教員（桑原先生）とすることを確認した。桑原先生は次回から出席していただく。桑原准教授に委員就任の要請を委員長が行う。

2. 予約システムおよび利用状況

予約システムを導入してから2年足らずであるが、機械・ロボット室、光・バイオ室ではあまり活用されていない。システムの説明が必要な場合は、研究設備センター名倉さんをお願いする。また、一つの設備を使うと自動的に特殊な部屋などを使用することになる場合などの付帯設備のリストを名倉さんに提供する。加藤研究支援員にそのリストを送り、加藤研究支援員から名倉さんに連絡する。また、青山先生から、先端研究設備部門は設立の趣旨としてベンチャー育成があったので、電通大発ベンチャーの社員が利用していることがわかるようになればいいという意見があった。それについては、守屋先生から課題を別にしてベンチャー企業の社員の利用申請すれば区別できるのではと意見があった。

3. 装置の更新および設備マスタープランについて先端研究設備部門の対応

大学のマスタープランでの先端研究設備部門の設備更新の順位付け方法について、次回の委員会で審議する。基本的には、古い装置で、使用者が多い、または大学にとって必要と判断される装置は更新する。

4. 今年度の運営について

研究支援員（将来は教育研究技師）、事務補佐員、先端研究設備部門委員、先端研究設備部門長によっておこなわれる。研究支援員は、必要に応じて機械・ロボット室、光・バイオ室の設備についても支援する。

5. 今年度の予算（設備の維持・運営）及び会計

装置につく維持費については、財務より連絡があり、従来通り配分した。新しくナノ微細加工と3Dマイクロ加工機について維持費については、購入費の割合で材料・デバイス室と機械・ロボット室に配分する。そのほか先端研究部門に例年どおり運営費が配分された場合、SVBLの研究施設を先端研究設備部門として研究設備センターに移し

た際、三木理事が各室での必要経費と認めた金額を設備、施設維持費として使用することを確認した。先端研究設備部門には、クリーンルームを初め、維持費がつかない高額維持管理費が必要なものが多くある。光熱費については、運営費から支払う。節電が大学より要請された場合はできるだけ従う。使用についての課金については、当面使用者に課さないが、大学からの運営費で施設維持ができなくなった場合将来検討する。基盤研究設備部門と異なるのは、利用者が複数の設備を利用しているため課金を設備ごとに行うことが難しい。

6. 広報

(ア) 施設利用説明会（基盤研究設備部門と合同？）いつ、どのように行うか？

先端研究設備部門の材料・デバイス室では、常時登録施設利用者には、説明会を毎年年度初めに行っている。常時登録利用者以外および他の室にも学内に施設利用希望者がいるか学内にメールを出す。

(イ) ポスター（研究設備、研究）の作成

研究設備および研究例のポスターは作成し、定期的に更新している。

(ウ) ホームページの作成（基盤研究設備部門と一緒に）

ホームページについては、その内容を部門長が検討し、必要に応じて室長と相談する。

(エ) 研究成果報告書（基盤研究設備部門、低温部門と一緒に？）

昨年度同様今年度も研究設備センターの報告書に含めるようにする。

(オ) 産学官連携 DAY での施設公開

材料・デバイス室 2 名、機械・ロボット室 1 名、光・バイオ室 1 名の TA と研究支援員により公開する。材料・デバイス室では、昨年度多くの希望があったのでクリーンルームの見学も実施する。

(カ) 外部利用者の拡大、課金

先端研究設備部門の研究施設を利用して誕生した電通大発ベンチャー企業に積極的に利用するよう、ベンチャー企業の育成をこれまで通り支援する。また、企業との共同研究を促進させ、外部利用者を拡大する。課金については、学内の利用者には、現時点で課さないが、外部利用者については個別に検討する。

7. グループ間の連携をどのようにしていくのか？研究基盤部門との差別化？

先端研究設備部門は、3つの室からできており、利用者は各室の複数の設備を利用している。今後は、利用者が室を超えて利用できるよう各装置の説明を積極的に行う。まず、ホームページで各室の各々の設備を利用するとどのようなことができるのかを他室の利用者にもわかるように具体的に分かりやすく説明するようにする。将来は、室を超えて研究に関する連携ができるよう工夫する。

8. その他

各室の連携を促進するために一部屋に他室の利用者にとっても有効利用が可能と思われる計測装置を集めて、室を超えての連携を促進させる。

次回（第2回）先端研究設備部門会議開催予定日

平成24年7月23日（月）16:30-